

岡崎市の子ども・子育てに関する
アンケート調査報告書

【概要版】

令和6年3月

岡崎市

1. 調査目的

子どもと子育て家庭の目線に立ち、子どもの育ちを重視する本市の実情に即した更なる環境整備を図るため、岡崎市内の子どもや子育て家庭を取り巻く環境を把握するために実施しました。

2. 調査概要

- 調査地域 岡崎市全域
- 調査対象者 岡崎市内在住の就学前のお子さんをお持ちの世帯・保護者（就学前児童保護者）
岡崎市内在住の小学生のお子さんをお持ちの世帯・保護者（小学生児童保護者）
岡崎市内の保育園・幼稚園・認定こども園の職員
岡崎市内の事業所
- 抽出方法 無作為抽出及び悉皆
- 調査方法 郵送配布、郵送又はインターネットによる回収
- 調査期間 令和5年11月1日（水）～令和5年11月20日（月）

調査票	配布数	回収数	回収率
就学前児童保護者	3,000 件	1,469 件	49.0%
小学生児童保護者	2,000 件	954 件	47.7%
保育園・幼稚園・ 認定こども園職員	1,048 件	746 件	71.2%
事業所	500 件	166 件	33.2%
合計	6,548 件	3,335 件	50.9%

3. 報告書の見方

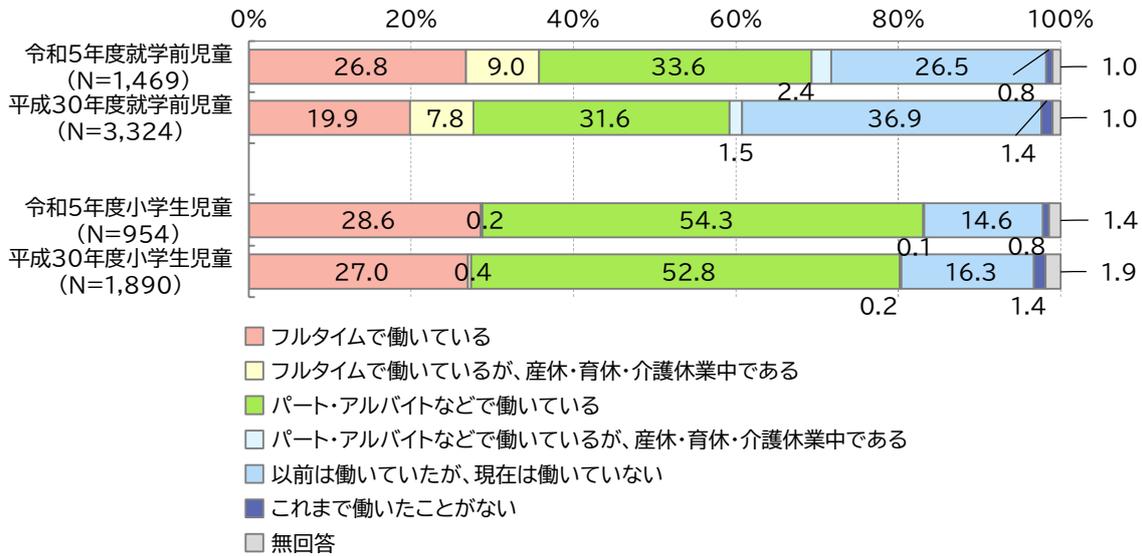
- 図・表中の N とは、設問に対する回答の合計数です。
- 回答は N、回答者数を 100%として百分率で算出しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがあります。
- 図・表中の 0.0 は回答者が皆無のものです。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合があります。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化しています。
- 就学前児童保護者を「就学前児童」、小学生児童保護者を「小学生児童」と省略しています。

II

就学前児童・小学生児童 調査結果

保護者の就労状況について（母親）

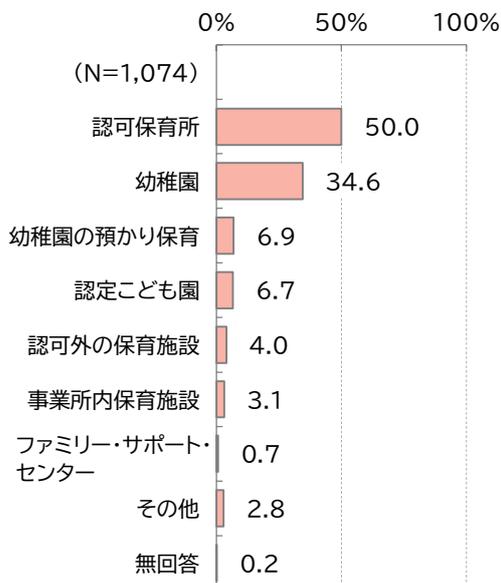
就学前児童の7割超、小学生児童の8割超が就労しており、就学前児童では「フルタイムで働いている」が26.8%で、前回調査時の19.9%から増加しています。



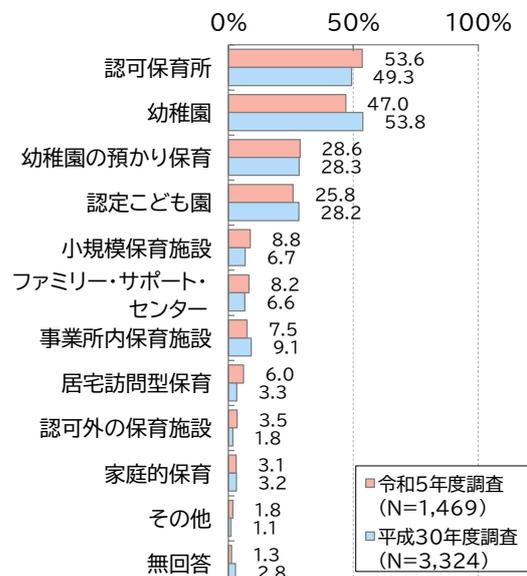
定期的な教育・保育事業の利用について

現在利用している事業、定期的にご利用したい事業ともに「認可保育所」が最も多く、それぞれ50.0%、53.6%となっています。また、定期的にご利用したい事業は、前回調査時に比べて幼稚園が減少し、認可保育所が多くなっています。

【現在利用している事業】



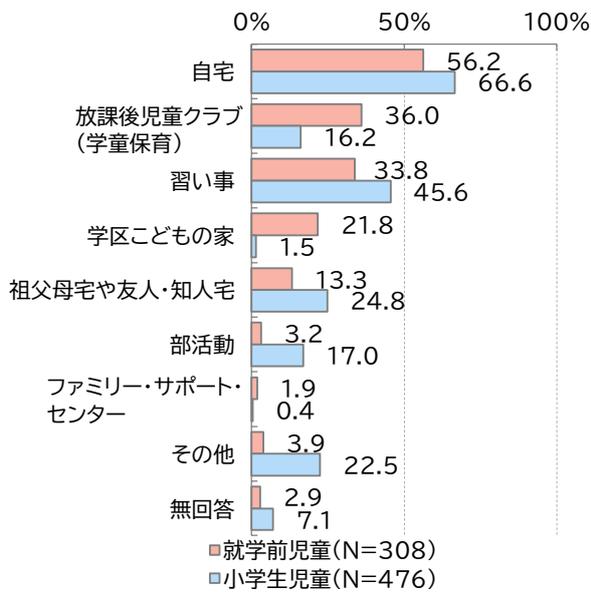
【定期的にご利用したい事業】



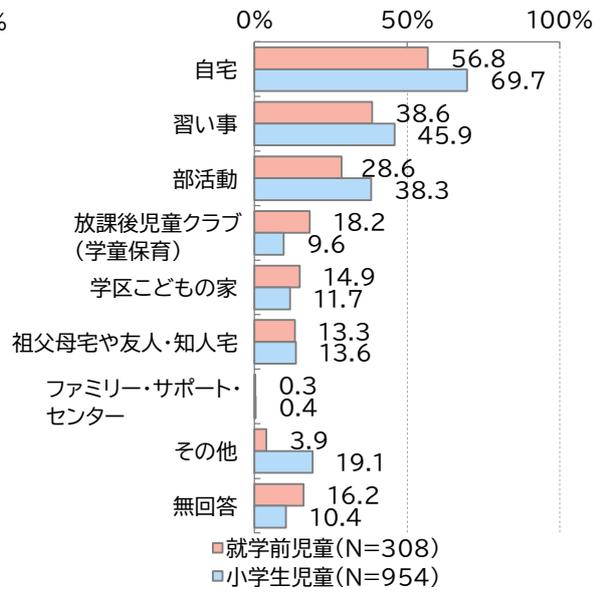
放課後（小学校終了後）の過ごし方

低学年における希望の放課後の過ごし方は、就学前児童・小学生児童ともに「自宅」が最も多く、次いで、就学前児童では「放課後児童クラブ（学童保育）」、小学生児童では「習い事」となっています。高学年における希望の放課後の過ごし方は、「部活動」の割合が高くなり、「放課後児童クラブ（学童保育）」の割合が低くなっています。

【希望の過ごし方（低学年）】



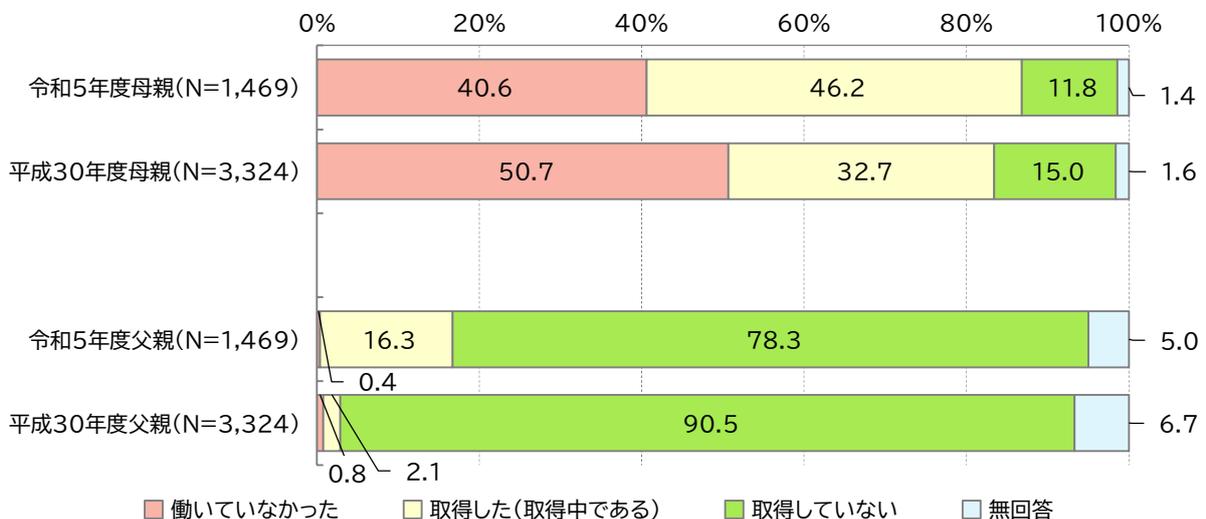
【希望の過ごし方（高学年）】



育児休業の取得状況について

育児休業の取得について、母親は「取得した（取得中である）」が46.2%であり、前回調査時の32.7%に比べて13.5ポイント増加しました。

父親は「取得した（取得中である）」が16.3%であり、母親に比べて依然低い水準となっていますが、前回調査時の2.1%に比べて14.2ポイント増加しました。

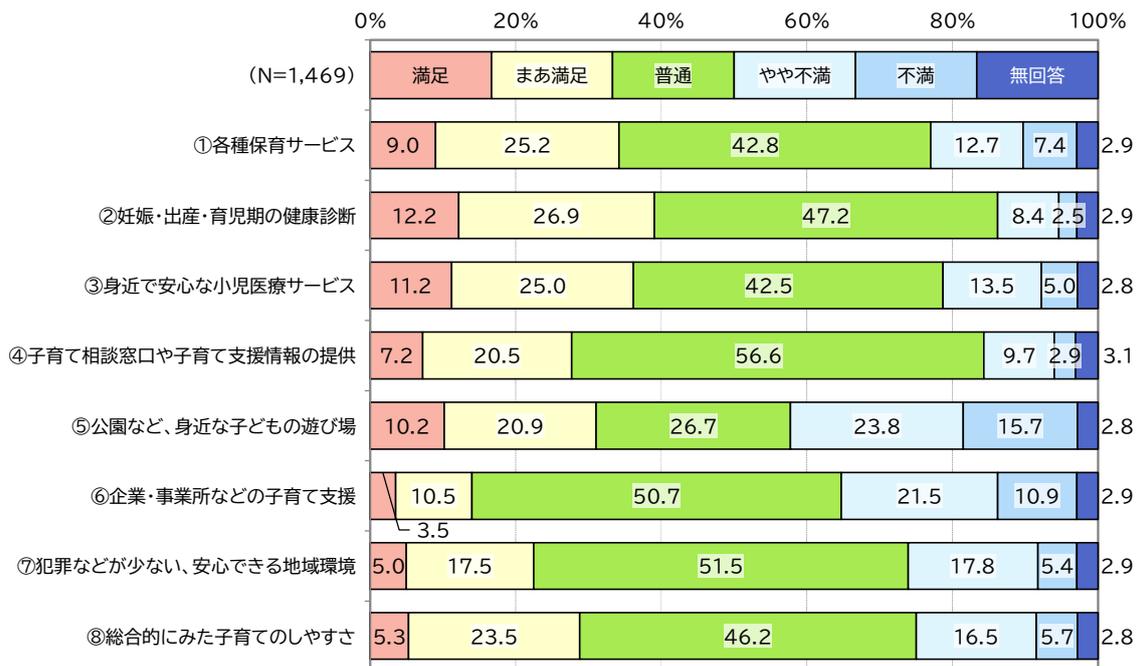


子育て全般について

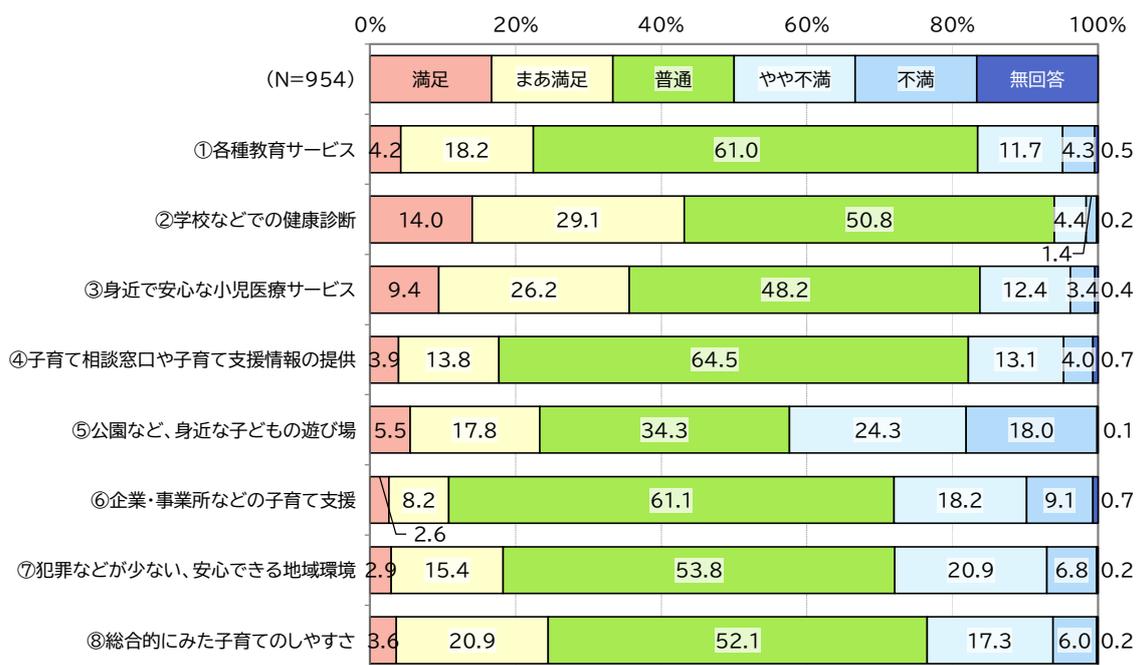
【岡崎市の各分野における満足度】

岡崎市の分野別満足度について、就学前児童・小学生児童ともに「各種保育・教育サービス」「妊娠・出産・育児期・学校などでの健康診断」「身近で安心な小児医療サービス」は満足度（満足・まあ満足の合計割合）が高い傾向にあります。一方で、「公園など、身近な子どもの遊び場」については、不満（不満・やや不満の合計割合）がそれぞれ39.5%、42.3%となっています。

（就学前児童）



（小学生児童）



【子育て環境のために市に期待する施策】

「子育てにかかる経済的な負担の援助」が就学前児童で73.7%、小学生児童で71.2%と最も多くなっています。「全天候型の遊び場の整備など子どもの遊び場の充実」が就学前児童で57.0%、小学生児童で53.4%、「夜間や休日における小児科や医療体制の整備」が就学前児童で56.6%、小学生児童で57.1%となっています。

経済的支援や子どもを安心して育てられる環境づくりが求められています。



■就学前児童(N=1,469) ■小学生児童(N=954)

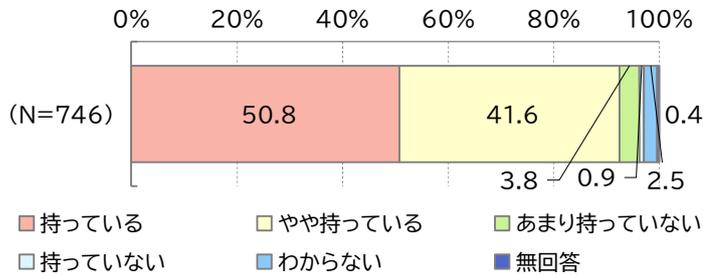


保育園・幼稚園・認定こども園職員 調査結果

仕事や職場の環境について

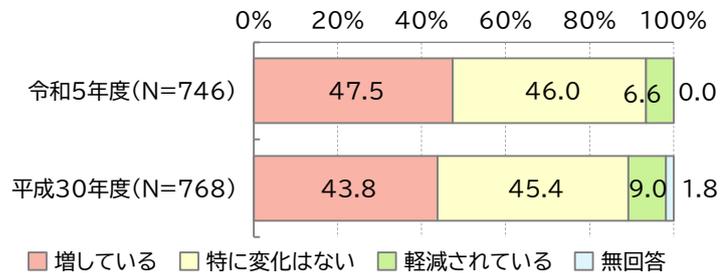
【仕事のやりがいや充実感】

仕事にやりがいや充実感を「持っている」「やや持っている」職員は9割超となっています。



【業務負担】

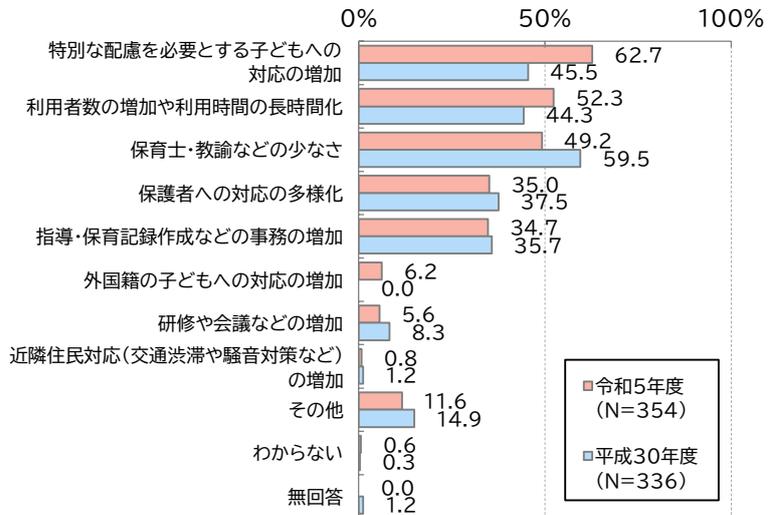
業務負担が「増している」が約5割であり、前回調査時と比べてやや増加しています。



【業務負担が増した理由】

「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」が62.7%と最も多くなっています。

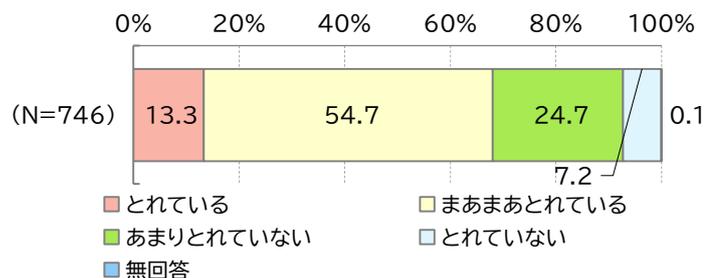
前回調査時と比べて、「保育士・教諭などの少なさ」が10.3ポイント減少しましたが、「特別な配慮を必要とする子どもへの対応の増加」が17.2ポイント増加しました。



※平成30年度調査では「外国籍の子どもへの対応の増加」の選択肢なし。

ワーク・ライフ・バランスについて

「とれている」「まあとれている」の割合が68.0%となっています。今後も、仕事にやりがいや充実感を持って取り組むとともに、家庭生活や趣味などに費やす時間を、自ら希望するバランスで確保できるよう取り組むことが重要です。

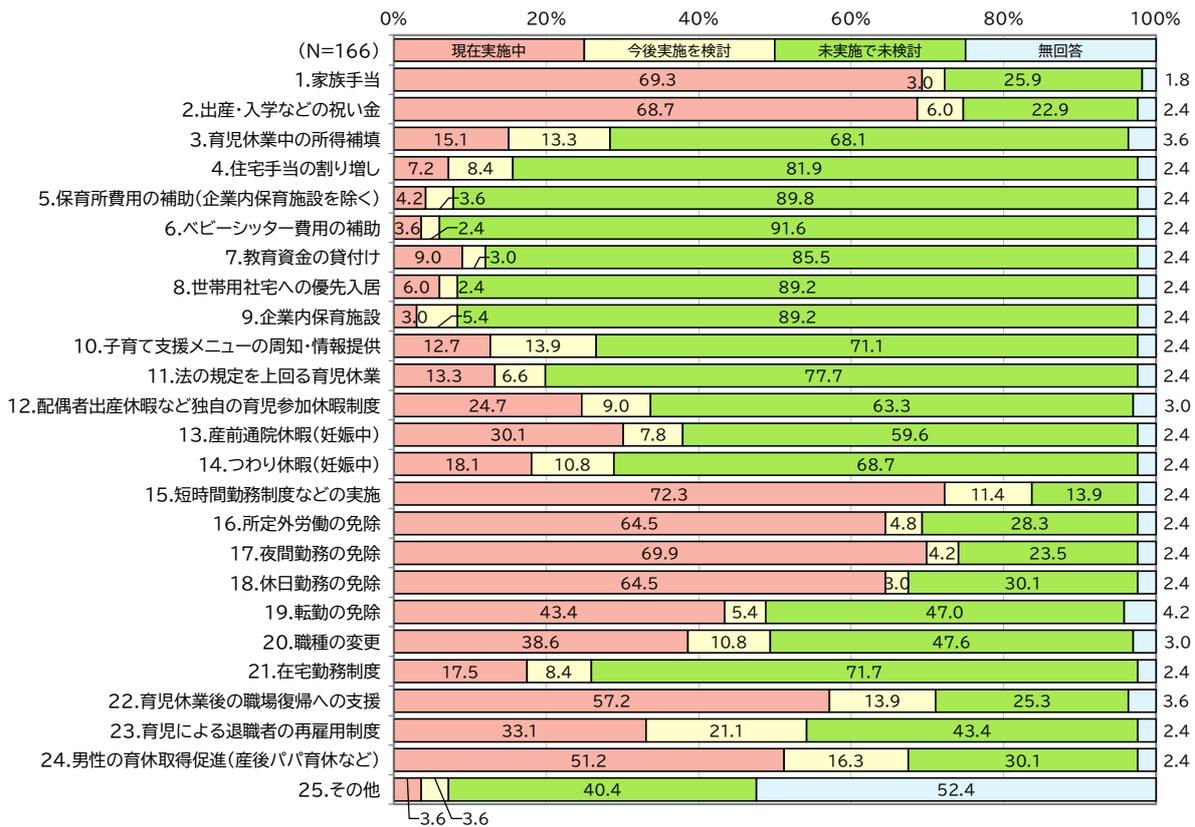


IV

事業所 調査結果

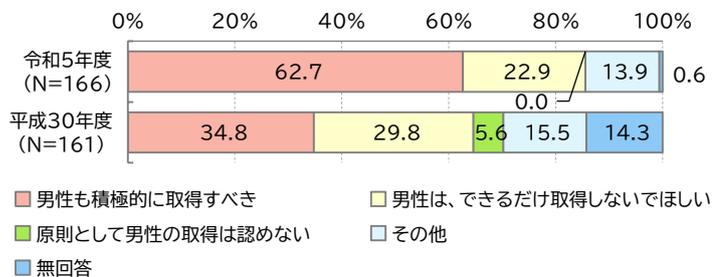
企業の子育て支援制度

7割弱の事業所で「家族手当」「出産・入学などの祝い金」などの経済的支援に取り組んでおり、「短時間勤務制度などの実施」をはじめとする各種勤務条件の免除は6割超の事業所で取り組まれています。また、「男性の育休取得促進」「育児休業後の職場復帰への支援」などに取り組んでいる事業所は5割を超えており、育児休業取得者の増加につながっていると考えられます。



男性が育児休業や育児休暇を取得することについて

「男性も積極的に取得すべき」と考える事業所が62.7%と最も多く、前回調査時と比べて27.9ポイント増加しています。



岡崎市子ども・子育てに関するアンケート調査報告書【概要版】

岡崎市こども部 こども育成課
 〒444-8601 岡崎市十王町二丁目9番地
 TEL 0564-23-6798 FAX 0564-23-7292